

下富居排水区大規模雨水処理施設整備事業計画（富山市）

（様式１）

項 目	内 容 ・ 施 策 等
選定理由	下富居排水区は、南北方向に「あいの風とやま鉄道」が走る市中央部に位置し、準用河川がめ川流域として、富岩運河を經由、一級河川神通川へ流れ出る。当排水区の土地利用状況は昭和５０年代以降、都市化の進展が著しく、雨水流出量の増加により、平成１３年８月の豪雨では床下浸水５戸、平成２０年８月の豪雨では床上浸水１戸、床下浸水数６戸の浸水被害が発生しているほか、床下浸水や道路冠水が頻繁に発生しているところである。 これまで、浸水対策として、平成１５年に下富居公園予定地に掘込式貯留池を整備したほか、流下能力の向上を図るため粗度係数を改善するなどを進めてきたところであるが、当排水区内において「あいの風とやま鉄道」の新駅の整備に伴い、新たに宅地等の開発が進められており、更なる雨水流出量の増加が想定されることから早急な浸水対策が急務である。
整備目標	① 本計画における対象降雨 ・本計画におけるハード・ソフト含めた対象降雨：75mm/hr ・目標とする理由：昭和４５年８月に記録した既往最大降雨 ・ハード整備による整備水準の目標：49mm/h（1/5確率降雨） ②目標設定 - i)生命の保護の観点：家屋の床上浸水を防止する。 - ii)都市機能の確保の観点：交通の支障となる道路冠水を防止する。 - iii)個人財産の保護の観点：家屋の床上浸水を防止する。 - iv)その他：特になし ③ハード対策，ソフト対策及び自助の役割分担について - i)ハード対策 施設整備により 49mm/h（1/5 確率）の降雨において浸水被害を防止することを目的とする。 - ii)ソフト対策及び自助 施設整備で対象とする降雨量を上回る既往最大降雨 75mm/h の降雨において、下水道管理者による内水ハザードマップの作成や地域住民による土のうの設置など、それぞれの主体が対策を実施することにより、被害をできるだけ軽減する。

項 目	内 容 ・ 施 策 等			
内水ハザードマップ策定状況	・ 有 （平成 年 月 日策定済み） ・ 策定予定 （令和7年3月末策定予定）			
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	・ 雨水貯留施設の整備 貯留能力4, 400m ³ (導水管貯留分含む)
			下水道管理者以外	・ 雨水幹線等の改修
		ソフト対策	下水道管理者	・ 内水ハザードマップの作成
			下水道管理者以外	・ 自主防災組織への活動支援（建設部防災対策課）
	自助	ハード対策		・ 土のうの設置
		ソフト対策		・ 自主訓練（自主防災組織5組織）

備考）事業内容については主な施策について具体的な実施数量を記述

また、下水道管理者以外が行う施策については、道路管理者など実施主体、制度要綱等を具体的に記述

- * 下水道浸水被害軽減総合事業の要件に該当し、当該事業による制度拡充分にあたる施設の整備を実施する場合には、該当する施設をすべて記載すること（別紙可、下水道浸水被害軽減総合事業の様式を参照）。なお、下水道浸水被害軽減総合計画を策定済みの場合は、その施設調書を添付すること。
- * 下水道総合地震対策事業の要件に該当し、当該事業による制度拡充分にあたる施設の整備を実施する場合には、該当する施設整備を総合地震対策計画に位置づけること。
- * 下水道施設の改築（浸水に対する安全度の向上を伴わないもの）を実施する場合には、当該施設の改築を下水道ストックマネジメント計画に位置づけること。（総合地震対策計画に位置づけられている場合を除く）

年度計画（百万円）

名称	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	計
雨水貯留施設	300	320	385	107									1,112
雨水幹線等			15	93	200	200	150	150	150	150	150	100	1,358
計	585	210	400	200	200	200	150	150	150	150	150	100	2,470

備考）事業内容に位置づけた施設について年割額（事業費）を記述。

整備済のものは含めない。

項 目	内 容 ・ 施 策 等
整備効果	<事業評価の内容> 浸水被害の軽減便益：7,005.1百万円が削減される。 B/C：2.62 経済的内部収益率：7.6%
放流先河川との調整状況	放流先である準用河川がめ川への放流量を現況以下とするため、流出抑制施設の整備を行い流域での浸水被害の軽減を図る。
その他	

(参考図面)

1. 使用図面

5,000～10,000 分の 1 程度で計画内容がわかるようにする。

2. 図面記載内容 ＊あくまで記載方法の一例である。

記載内容	色別	適用
貯留施設 施工済 計画期間内施工予定 集水区域	黒 赤 青	貯留施設を 2～3mm の実践で書く。 施設名を記入。 集水区域を 5mm 幅程度で囲む。施工済の場合は黒で全体を薄く塗りつぶす。
浸透施設 施工済 計画期間内施工予定 整備区域	黒 赤 青	対象区域を 5mm 幅程度で囲む。 施設名を記入。 対象区域を 5mm 幅程度で囲む。
ポンプ施設 施工済 計画期間内施工予定	黒 赤	直径 5mm の円に P で表現。 色で塗りつぶす。
雨水又は合流管渠 施工済 計画期間内施工予定	茶 橙	昭和 46 年 10 月 9 日付建設省告示第 1705 号の別表に定める基準に適合する管渠を 1mm の実線で書く。 管渠名を記入。
計画対象区域界	桃	2mm の実線。
① 駅	緑	色で塗りつぶす。 施設名を記入。
② 災害対策基本法に基づく地域防災計画に位置付けられた施設(緊急輸送道路, 防災拠点等)		
③ 国の防災関係機関や県庁, 市役所等の施設		
④ 高齢者・障害者等要配慮者関連施設		
⑤ 床上浸水被害の未解消地区	水色	水色で全体を薄く塗りつぶす。
⑥ 下水道管理者以外の主体との連携により行われている整備	黄色	黄色で全体を薄く塗りつぶし, 事業主体と事業名を記載。
⑦ 防水ゲート, 止水板又は逆流防止施設		
⑧ 各戸貯留浸透施設		

